

製品名: MLC-2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13941**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	MYL12A
別名	MYL12A; MLCB; MRCL3; RLC; Myosin regulatory light chain 12A; MLC-2B; Myosin RLC; Myosin regulatory light chain 2; nonsarcomeric; Myosin regulatory light chain MRCL3; MYL12B; MRCL2; MYLC2B; Myosin regulatory light chain 12B; MLC-2A; MLC-2; M
遺伝子 ID	10398/10627
SwissProt ID	P19105/O14950/P24844
免疫原	抗血清はヒト MLC-2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 5-54

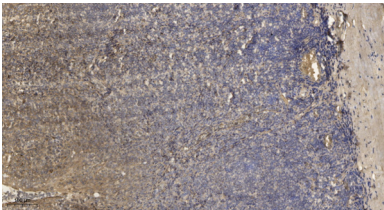
背景

この遺伝子は、非筋節性ミオシン調節軽鎖をコードする。このタンパク質はリン酸化によって活性化され、平滑筋および非筋細胞の収縮を制御する。また、このタンパク質は、p53 駆動性アポトーシスの抑制因子として機能する転写調節因子アポトーシス拮抗転写因子 (AATF) /Che-1 を隔離することで、DNA 損傷修復にも関与している可能性がある。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じる。この遺伝子の疑似遺伝子は 8 番染色体上に存在する。[RefSeq 提供、2014 年 12 月]機能: リン酸化を介して平滑筋および非筋細胞の収縮活性の制御に重要な役割を果たすミオシン調節サブユニット。細胞質分裂、受容体キャッピング、および細胞運動に関与する。、その他: この鎖はカルシウムと結合する。、PTM: リン酸化はアクチン活性化ミオシン ATPase 活性を増加させ、それによって収縮活性を制御する。これは細胞の移動の駆動力を生成するために必要ですが、ミオシン 2 の先端への局在には必要ありません。、類似性:3つの EF ハンドドメインを含みます。、サブユニット:ミオシンは2つの重鎖と4つの軽鎖の六量体です。、

研究分野

接着斑、タイトジャンクション、白血球の内皮透過移動、アクチンと細胞骨格の調節。

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。